

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

半田病院医事課

病院事務局長 竹内 甲司

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
35-001	医事・診療報酬請求事務事業	なし	C	レセプト点検ソフトの精度向上や、保険医療検討委員会(毎月開催)での査定内容の分析、対応方法の検討及び医師等への周知により査定率の抑制を図った。一方で、収益増のために査定の可能性のあるレセプトについても自己査定することなく積極的に請求を行った結果、査定率は0.24%となり、目標値である「0.20%以下」の達成には至らなかった。	改善 推進	レセプト点検体制の強化や査定内容の分析、対策の検討等を引き続き実施するとともに、査定率の低減のみにこだわることなく、必要以上に自己査定を行わず積極的に報酬請求し、収益の確保、増収を図っていく。
35-002	医療費未収金対策事業	なし	C	現年度分の未収金については、納付意思が希薄となる前に納付を促すなど、早期対応の取り組みを継続したが、収納率は99.09%で、目標値を0.46ポイント下回る結果となった。これは、高額な交通事故による診療費が、未収となったためである。 過年度分の未収金については、回収が困難な未収金について弁護士法人への回収委託を活用する等により、収納率は36.61%となり、目標値を9.58ポイントと大幅に上回ったものの、全体の収納率としては87.04%という結果で、目標値を2.16ポイント下回った。	改善 推進	現年度分の未収金については、早期に対応することで未収金を抑制する取り組みを継続するとともに、過年度分を始め回収が困難と判断された案件については、弁護士法人へ回収を委託することで、収納率の向上に努める。さらに、クレジット収納等の拡充や、自動精算機の利用促進など、支払環境の整備についても進めていく。
課等長	1次評価(令和2年度の総括評価)					
C	診療報酬請求事業については、レセプト点検ソフトの精度向上や、保険医療検討委員会での内容分析、対策の検討等により査定率の抑制に努めたが、診療報酬確保のために減点査定の可能性のあるものについても積極的に請求を行ったため、結果として目標の達成には至らなかった。査定率の低減と自己査定を行わない積極的な請求事務は報酬確保の面では相反するものであり、当該事業の目標として何が適切か検討の余地がある。 未収金対策事業については、現年度分の早期対応や過年度分、回収困難な案件に関する弁護士法人への委託の活用等により、すべての目標を達成することはできなかったものの、収納率を向上することができた。					
部等長	2次評価(令和2年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
C	診療報酬請求事務について、目標が未達となったことは反省すべきであるが、どのような方針で請求事務を行っていくことが病院経営にとってより良いかを数値にとらわれることなく検討していく。 未収金についても高額案件の発生で一部未達となったが、現年分の収納強化や回収困難案件の早期委託など早め早めの対応により未収金の増加を未然に防いでいく。					